

## ⑥平成30年7月豪雨により土石流が発生したその他水系 脇川における砂防激甚災害対策特別緊急事業

受賞機関 愛媛県 南予地方局 西予土木事務所

**キーワード** 早期事業効果の発現、被災地域の安全・安心

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平成30年7月豪雨の土石流災害における砂防堰堤整備。地元住民への丁寧な説明と徹底したスケジュール管理、自動追尾トータルステーションの活用といった工夫により、被災後2年8ヵ月という短期間で砂防堰堤を完成させた点が評価された。

### 1. はじめに

脇川は、愛媛県西予市明浜町に位置する流域面積0.02km<sup>2</sup>の溪流で、土砂災害警戒区域内には人家31戸、公民館（避難所）、旅館、国道378号、県道等が存在する。

平成30年7月5日から8日にかけて西日本に停滞した梅雨前線の影響により、西予市宇和町では24時間最大降水量が332mmという記録的な豪雨を観測した。

7日午前8時頃、脇川上流域の山腹が崩落し、土石流となって下流人家2戸が損壊したほか、国道や県道にも土砂が流れ込み、数日間通行止めとなった。崩落した山腹には不安定な土塊や斜面が残存し、次の出水により再び土石流が発生する懸念があったため、砂防設備の整備による早急な土砂災害対策が急務となっていた。



土石流の爪痕と被災家屋

### 2. 事業の概要

平成30年7月豪雨は、県の南西部を中心に広域にわたって甚大な被害をもたらしており、被災直後の喫緊の課題は、測量設計業者の確保であったことから、当事務所は、被災後直ちに測量設計業務の発注準備に取り掛かり、翌8月には県内業者と委託契約を締結し、業務に着手した。

また、当該業務と並行して住民説明会を2回開催する

など丁寧に地元調整を進めた結果、用地交渉は円滑に進み、被災から約1年後の令和元年7月にすべての用地取得を完了させ、同年8月に砂防堰堤の新設工事に着手した（砂防堰堤の規模 堤高8.0m、堤長 48.0m）。

工事の早期完成には、労働力不足が課題となっていたため、受注業者は、県建設業協会を通じて比較的被害の少なかった地域の建設業者に支援を要請するなど労働者確保に奔走するほか、通常2名以上必要となる測量作業を反射プリズム側1名での測量を可能にする自動追尾トータルステーションを活用するなど、施工の効率化にも取り組んだ。

### 3. 事業の成果

被災直後から、早期復興に向けて課題を洗い出し、地元住民への丁寧な説明と徹底したスケジュール管理が功を奏し、被災後2年8ヵ月（令和3年3月本堤完成、事業完了は令和4年3月）という短期間で住民の安全・安心な暮らしを取り戻し、被災地域の復興に寄与することができた。



完成した砂防堰堤と保全集落

### 4. おわりに

資材や労働力の不足など様々な制約がある中、被災から短期間で当該事業を完了できたことは、地域の皆様方をはじめ、測量設計業者や工事関係者、西予市など関係機関の方々のご理解とご協力によるところであり、心より厚く御礼申し上げます。

近年、自然災害の激甚化・頻発化が一層顕著となっていることから、今回の経験を活かし更なる防災・減災対策に尽力してまいります。

賛助会員 南海測量設計(株)、平野建設(株)